

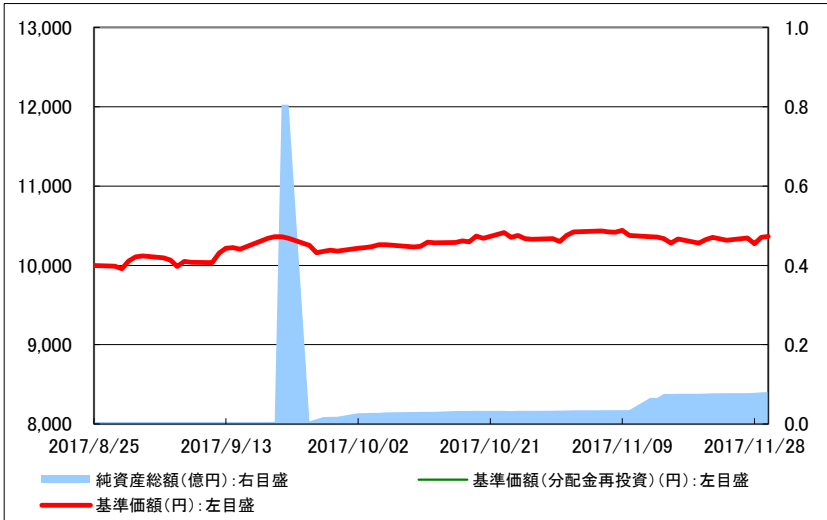
# SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

## 基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	10,364 円	+ 64 円
純資産総額	0.08 億円	+ 0.05 億円

## 期間別騰落率

	騰落率
1カ月	0.62%
3カ月	2.54%
6カ月	-
1年	-
3年	-
設定来	3.64%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

## 分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2018年6月	2019年6月	2020年6月
分配金	- 円	- 円	- 円

- ※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

## マザーファンドの月間騰落率

マザーファンド	騰落率
国内株式インデックス マザーファンド	1.50%
国内債券インデックス マザーファンド	0.27%
外国株式インデックス マザーファンド	0.69%
外国債券インデックス マザーファンド	0.08%
新興国株式インデックス マザーファンド	1.32%
新興国債券インデックス マザーファンド	0.56%

## ファンドの運用状況

当月は、主に海外株式のパフォーマンスが牽引し、ファンド全体の基準価額は上昇しました。株式は、国内企業の好決算や円安・米ドル高、米国における税制改革実現への進展、次期FRB(米連邦準備理事会)議長人事の発表が好感されたことなどを背景に、日本、先進国、新興国ともにプラスに寄与しました。債券は、日本や欧州、米国の金融当局の金融政策の方向性の違いなどが意識されるなか、日本と先進国はほぼ横ばいであった一方、投資家のリスク選好姿勢が強まり新興国通貨が対円で概ね上昇したことから、新興国はプラスに寄与しました。今後の運営方針としては、地域別のGDP(国内総生産)総額の比率に基づき決定した基本組入比率に則り、世界の株式および債券への分散投資を行いつつ、世界経済の全体の発展に追随する中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行ってまいります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

# SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

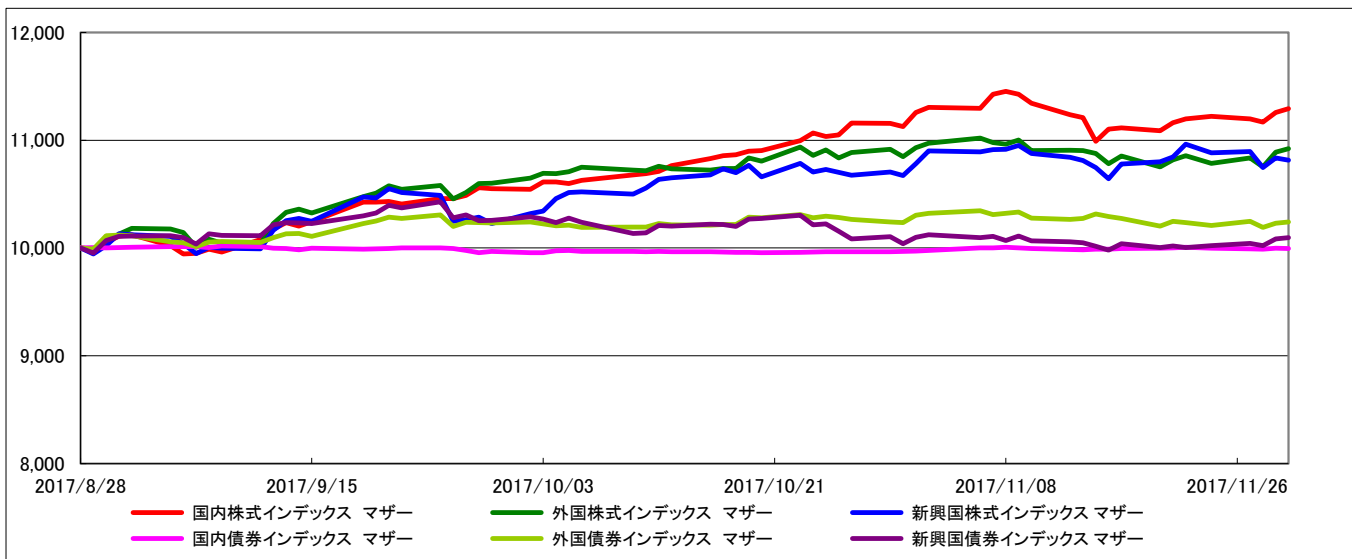
## マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
国内株式インデックス マザーファンド	3.07%	3.00%	0.07%	5 円
国内債券インデックス マザーファンド	1.99%	3.00%	-1.01%	1 円
外国株式インデックス マザーファンド	27.76%	27.50%	0.26%	20 円
外国債券インデックス マザーファンド	27.33%	27.50%	-0.17%	2 円
新興国株式インデックス マザーファンド	19.76%	19.50%	0.26%	27 円
新興国債券インデックス マザーファンド	19.31%	19.50%	-0.19%	11 円
その他	0.77%	-	-	- 1 円
合計	100.00%	100.00%	-	64 円

※ 対純資産総額比です。

※ 各マザーファンドのベンチマークについては、9ページをご覧ください。

## マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

## 組入上位10カ国

	国	比率
1	米国	29.99%
2	日本	5.84%
3	フランス	4.00%
4	英国	3.90%
5	ブラジル	3.36%
6	ケイマン島	3.23%
7	韓国	3.11%
8	ドイツ	3.10%
9	南アフリカ	3.02%
10	イタリア	2.99%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	32.43%
2	ユーロ	14.85%
3	日本円	6.63%
4	香港ドル	4.71%
5	英国ポンド	3.86%
6	ブラジル・リアル	3.29%
7	韓国ウォン	3.05%
8	南アフリカ・ランド	3.05%
9	メキシコ・ペソ	2.83%
10	インドネシア・ルピア	2.31%

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

## 資産内容

株式	98.52%
株式先物取引	1.59%
短期金融資産等	-0.11%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	13.94%	13.94%
2	輸送用機器	8.76%	8.76%
3	情報・通信業	7.79%	7.79%
4	銀行業	7.29%	7.29%
5	化学	7.28%	7.28%
6	機械	5.48%	5.48%
7	小売業	4.68%	4.68%
8	食料品	4.49%	4.49%
9	卸売業	4.47%	4.47%
10	医薬品	4.38%	4.38%

※ 対現物株式構成比です。

## 組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.30%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.13%
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.62%
4	日本電信電話	情報・通信業	1.59%
5	ソニー	電気機器	1.34%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.31%
7	本田技研工業	輸送用機器	1.30%
8	キーエンス	電気機器	1.23%
9	KDDI	情報・通信業	1.09%
10	任天堂	その他製品	1.07%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,989

## 市場動向

国内株式市場は、上昇しました。

月前半は、エレクトロニクス関連の主力株の好決算を受けて市場心理が強気に傾いたことや、米国株式市場の上昇、円安・米ドル高などを背景に日本株の割安感に着目した海外投資家の買いなどが膨らみ、大幅に上昇したものの、米共和党の減税策の先送り懸念、地政学リスクへの警戒感などもあって利益確定売りに押されるなど値動きが荒い展開となりました。月後半は、高値警戒感を背景とした水準調整が一巡し、じり高の展開となりました。欧米株式市場が堅調に推移したことや日銀のETF購入などが下支えとなり、好業績銘柄・出遅れ銘柄への押し目買いなどで底堅い展開となりました。

&lt;本資料のお取扱いにおけるご留意点&gt;を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 国内債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

## 資産内容

債券	99.81%
債券先物取引	0.09%
短期金融資産等	0.10%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

## 特性値

	ファンド	ベンチマーク
残存年数	9.51 年	9.33 年
修正デュレーション	8.96 年	8.78 年
最終利回り	0.13 %	0.13 %
銘柄数	752	-

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいかほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

## 種類別構成比

種類	ファンド	ベンチマーク
国債	82.74%	82.97%
地方債	6.54%	6.45%
政府保証債	2.81%	2.76%
金融債	0.65%	0.66%
事業債	5.40%	5.32%
円建外債	0.50%	0.53%
MBS	1.27%	1.24%
ABS	0.09%	0.07%

※ 対現物債券構成比です。

## 残存期間別構成比

残存年数	ファンド	ベンチマーク
1年未満	0.13%	0.00%
1年以上3年未満	19.12%	20.78%
3年以上7年未満	28.99%	27.64%
7年以上10年未満	16.67%	15.70%
10年以上	35.09%	35.88%

※ 対現物債券構成比です。

## 市場動向

国内債券市場では、10年国債利回りが0.035%に低下(価格は上昇)しました。月前半は、10年国債入札や日銀の国債買い入れオペで債券需給の引き締まりが意識されたことや、米長期金利の低下などを受けて債券の買戻しの動きが強まり、10年国債利回りは低下しました。その後は30年国債入札の軟調な結果や日銀の国債買い入れオペで超長期国債の需要の弱さが示されたことなどから、やや利回りは上昇しました。月後半は、超長期債を中心に2018年度の国債発行が減額されるとの観測が強まり債券需給の引き締まりが意識されたものの、一方で日銀が国債買い入れオペで25年超の買い入れ額を減らすなど債券需給の緩みも意識され、10年国債利回りは0.03%を中心とした狭いレンジでのみみ合い推移となりました。

<本資料のお取り扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 外国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

## 資産内容

株式	96.95%
株式先物取引	3.10%
短期金融資産等	-0.05%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10カ国

	国	ファンド	ベンチマーク
1	米国	65.46%	65.37%
2	英国	7.15%	7.09%
3	フランス	4.23%	4.35%
4	ドイツ	4.00%	3.98%
5	カナダ	3.82%	3.83%
6	スイス	3.29%	3.28%
7	オーストラリア	2.79%	2.75%
8	オランダ	1.46%	1.48%
9	スペイン	1.37%	1.36%
10	香港	1.35%	1.42%

※ 対現物株式構成比です。

## 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	ソフトウェア・サービス	10.20%	10.24%
2	銀行	9.74%	9.70%
3	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	8.19%	8.19%
4	資本財	7.46%	7.49%
5	エネルギー	6.64%	6.70%
6	食品・飲料・タバコ	5.37%	5.36%
7	素材	4.95%	4.94%
8	各種金融	4.64%	4.66%
9	保険	4.27%	4.21%
10	ヘルスケア機器・サービス	4.24%	4.26%

※ 対現物株式構成比です。

※ 業種はGICS分類(産業グループ)によるものです。GICSに関する知的所有権等はS&amp;PおよびMSCI Inc.に帰属します。

## 組入上位10銘柄

	銘柄	国	比率
1	APPLE INC	米国	2.38%
2	MICROSOFT CORP	米国	1.64%
3	AMAZON.COM	米国	1.27%
4	FACEBOOK INC-A	米国	1.11%
5	JOHNSON & JOHNSON	米国	1.01%
6	JPMORGAN CHASE & CO	米国	0.99%
7	EXXON MOBIL	米国	0.94%
8	ALPHABET INC-CL C	米国	0.86%
9	ALPHABET INC-CL A	米国	0.83%
10	BANK OF AMERICA CORP	米国	0.76%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,328

## 市場動向

米国株式市場は、上昇しました。月前半は、堅調な企業決算や次期FRB(米連邦準備理事会)議長人事の発表などが好感された一方、税制改革の先行き不透明感や高値警戒による利益確定の動きなどから上値の重い展開となりました。月後半は、年末商戦が好調な滑り出しとなったことや、税制改革法案が上院予算委員会で可決され、税制改革の実現に近づいたことを受けて主要な株価指数が連日過去最高値を更新するなど、米国株式市場は堅調に推移しました。

欧州株式市場は、下落しました。月前半は、堅調さを示すマクロ景気指標などが下支え要因となったものの、高値警戒による利益確定の動きが先行する展開となりました。月後半は、ドイツの連立政権樹立に向けた交渉の決裂や、米ドルに対するユーロや英ポンドの上昇が嫌気されるなど、上値の重い展開が続きました。

&lt;本資料のお取扱いにおけるご留意点&gt;を必ずお読みください。

# SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

### 資産内容

債券	98.37%
債券先物取引	1.14%
短期金融資産等	0.50%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

### 特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	2.39%	-
最終利回り	1.42%	1.45%
残存年数	8.42年	8.52年
修正デュレーション	7.05年	7.15年
銘柄数	670	-

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

### 組入上位10カ国

	国	ファンド	ベンチマーク
1	米国	42.99%	42.60%
2	フランス	10.34%	10.35%
3	イタリア	9.96%	10.11%
4	ドイツ	7.28%	7.39%
5	英国	7.00%	7.06%
6	スペイン	5.89%	5.84%
7	ベルギー	2.60%	2.61%
8	オランダ	2.23%	2.26%
9	カナダ	2.13%	2.14%
10	オーストラリア	2.11%	2.14%

※ 対現物債券構成比です。

### 組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	42.99%	42.60%
2	ユーロ	41.30%	41.62%
3	英国ポンド	7.00%	7.06%
4	カナダ・ドル	2.13%	2.14%
5	オーストラリア・ドル	2.11%	2.14%
6	メキシコ・ペソ	0.88%	0.86%
7	デンマーク・クローネ	0.66%	0.62%
8	ポーランド・ズロチ	0.63%	0.64%
9	南アフリカ・ランド	0.53%	0.53%
10	スウェーデン・クローナ	0.47%	0.47%

※ 対現物債券構成比です。

## 市場動向

米国10年国債利回りは、上昇(価格は下落)しました。月前半は、次期FRB(米連邦準備理事会)議長にパウエル理事が指名されたことや、米賃金指標の伸び悩みなどを受けて、利回りは小幅に低下(価格は上昇)しました。月後半は、FOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨の内容などから先行きの米利上げペースは緩やかとの見方が強まったものの、月末にかけては堅調な米景気指標に加え、米税制改革の実現期待の高まりなどから、利回りは2.4%台前半に上昇しました。

ドイツ10年国債利回りは、前月末比でほぼ横ばいとなりました。月前半は、米金利の上昇に加え、ユーロ圏の2017年7-9月期の実質GDP(域内総生産)成長率が堅調であったことなどから、利回りは一時上昇しました。月後半は、堅調な景気指標とECB(欧州中央銀行)による低金利政策の継続期待などが交錯し、利回りは小幅に低下しました。

米ドル/円相場は、円高・米ドル安の動きから112円台前半となりました。月前半は、堅調な米雇用指標やFOMCの内容を受けて一時円安・米ドル高が進んだものの、その後は米税制改革に対する先行き不透明感などで上値が重い展開となりました。月後半は、米税制改革の進展が見られたものの、北朝鮮情勢を巡る警戒感の高まりなどを背景に、円高・米ドル安が進みました。

ユーロ/円相場は、円安・ユーロ高の動きから132円台後半となりました。月前半は、ユーロ圏の堅調な経済指標を受けて、円安・ユーロ高が進みました。月後半は、欧州経済指標が堅調に推移したものの、インフレ率の伸び悩みなどを背景にECBによる低金利政策の継続期待が高まったことから、やや円高・ユーロ安となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 新興国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

## 資産内容

株式	98.80%
株式先物取引	1.35%
短期金融資産等	-0.15%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10カ国

	国	比率
1	ケイマン島	16.15%
2	韓国	15.56%
3	台湾	11.33%
4	中国	9.39%
5	インド	8.62%
6	ブラジル	6.77%
7	南アフリカ	6.30%
8	香港	3.37%
9	ロシア	3.30%
10	メキシコ	2.99%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	香港ドル	22.17%
2	韓国ウォン	15.56%
3	台湾ドル	11.51%
4	米国ドル	11.39%
5	インド・ルピー	8.62%
6	ブラジル・リアル	6.77%
7	南アフリカ・ランド	6.66%
8	メキシコ・ペソ	2.99%
9	タイ・バーツ	2.19%
10	マレーシア・リンギット	2.17%

※ 対純資産総額比です。

※ マザーファンドを通じ、新興国の企業が米ドル建て等で発行する証券(預託証券(DR))にも投資します。したがって、通貨構成比は国別構成比と異なることがあります。

## 組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	銀行	16.70%	16.89%
2	ソフトウェア・サービス	14.06%	13.98%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	9.09%	8.84%
4	素材	7.21%	7.18%
5	エネルギー	6.76%	6.75%
6	半導体・半導体製造装置	5.68%	5.49%
7	電気通信サービス	4.70%	4.86%
8	保険	3.70%	3.67%
9	資本財	3.57%	3.56%
10	食品・飲料・タバコ	3.47%	3.43%

※ 対現物株式構成比です。

## 組入上位10銘柄

	銘柄	国	比率
1	TENCENT HOLDINGS LTD	ケイマン島	5.55%
2	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	4.42%
3	ALIBABA GROUP HOLDING-SP ADR	ケイマン島	3.80%
4	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	台湾	3.56%
5	NASPERS LTD-N SHS	南アフリカ	2.28%
6	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	中国	1.36%
7	BAIDU INC - SPON ADR	ケイマン島	1.19%
8	CHINA MOBILE (HONG KONG) LIMITED-R	香港	1.16%
9	IND&COMM BK OF CHINA-H	中国	1.08%
10	PING AN INSURANCE GROUP CO-H	中国	1.02%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 826

## 市場動向

新興国株式市場は、まちまちの展開となりました。

香港株式市場の中国株は、フィンテックを重視した事業戦略により競争力の強化が期待される保険関連銘柄などを中心に上昇しました。また、主要なIT関連銘柄の決算が引き続き堅調だったことや、11月11日にアリババが行った「独身の日」セール取引額が過去最高を更新したことなどが注目されました。ロシア株式市場は、サウジアラビアの王族の汚職取り締まりを受けて中東情勢への警戒感が強まり原油価格が上昇したことを背景に、エネルギー関連銘柄主導で上昇しました。台湾株式市場は、半導体などIT関連銘柄を中心に堅調な動きが続いていたものの、高値警戒感が広がり月末にかけて下落しました。韓国株式市場も、IT関連銘柄に対する高値警戒感に加え、北朝鮮の弾道ミサイル発射が嫌気され月末にかけて下落しました。韓国銀行は月末に、6年5カ月ぶりとなる政策金利の引き上げを実施しました。

&lt;本資料のお取扱いにおけるご留意点&gt;を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## 新興国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

## 資産内容

債券	97.46%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	2.54%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

## 特性値

直接利回り	5.95 %
最終利回り	5.84 %
残存年数	7.17 年
修正デュレーション	4.90 年
銘柄数	181

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

## 組入上位10カ国

	国	比率
1	メキシコ	10.35%
2	ブラジル	10.12%
3	インドネシア	9.75%
4	ポーランド	9.20%
5	南アフリカ	8.17%
6	タイ	8.14%
7	ロシア	7.61%
8	コロンビア	7.00%
9	トルコ	6.86%
10	マレーシア	5.83%

※ 対純資産総額比です。

## 組入上位10通貨

	通貨	比率
1	メキシコ・ペソ	10.35%
2	ブラジル・リアル	10.12%
3	インドネシア・ルピア	9.75%
4	ポーランド・ズロチ	9.20%
5	南アフリカ・ランド	8.17%
6	タイ・バーツ	8.14%
7	ロシア・ルーブル	7.61%
8	コロンビア・ペソ	7.00%
9	トルコ・リラ	6.86%
10	マレーシア・リングgit	5.83%

※ 対純資産総額比です。

## 市場動向

新興国為替市場は、対円でまちまちとなりました。

上旬は、原油価格の上昇に加え、米国の堅調な景気指標や株高を背景に投資家のリスク選好姿勢が強まり、新興国通貨は対円で概ね上昇しました。中旬以降は、米税制改革案に対する先行き不透明感に加え、ドイツの連立協議が難航したことで欧州の政治リスクが意識されたことや、北朝鮮の地政学リスクの高まりを受けたリスク回避の動きから、新興国通貨は対円で下落しました。ただ月末にかけては米税制改革法案が上院予算委員会で可決されたことを受けて税制改革実現への期待が高まったことなどから、新興国通貨は対円でやや持ち直す展開となりました。通貨別では、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の進展期待が高まったメキシコ・ペソなどが上昇した一方で、対米関係の悪化懸念が高まったトルコ・リラなどが下落しました。

新興国債券市場は、まちまちとなりました。

国別では、CPI(消費者物価指数)が市場予想を下回ったインドネシアの利回り低下(価格は上昇)幅が大きくなった一方で、対米関係の悪化を背景に資金流出の動きが見られたトルコの利回り上昇(価格は下落)幅が大きくなりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



# SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## マザーファンドのベンチマーク

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

マザーファンド	ベンチマーク
国内株式インデックス マザーファンド	<p>【TOPIX(東証株価指数)】</p> <p>TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)が算出、公表する指数で、東京証券取引所市場第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象とした時価総額加重型の株価指数です。同指数は、東証の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関する全ての権利は、東証が有しています。なお、東証は、ファンドの設定又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。</p>
国内債券インデックス マザーファンド	<p>【NOMURA-BPI総合】</p> <p>NOMURA-BPI 総合とは、野村證券株式会社が公表する、日本の公募債券流通市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。</p>
外国株式インデックス マザーファンド	<p>【MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)】</p> <p>MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)とは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。</p>
外国債券インデックス マザーファンド	<p>【シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)】</p> <p>シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)とは、Citigroup Index LLCが開発した、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。なお、Citigroup Index LLCは、ファンドの設定又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。</p>
新興国株式インデックス マザーファンド	<p>【MSCIエマージング・マーケット・インデックス(円換算ベース)】</p> <p>MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。</p>
新興国債券インデックス マザーファンド	<p>【JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円換算ベース)】</p> <p>JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドとは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算したものです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。</p>

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## ファンドの特色

- 世界の株式及び債券に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
  - 世界の株式及び債券に分散投資を行うことで、リスクの低減に努めます。
  - 各マザーファンドは各投資対象市場の代表的な指数(インデックス)への連動を目指す運用を行います。
  - 原則として、為替ヘッジは行いません。
- 世界経済全体の発展を享受します。
  - 基本組入比率は、地域別(日本、先進国、新興国)のGDP(国内総生産)総額の比率に基づき決定します。
  - ※ 年1回地域別構成比の見直しを行います。

## 投資リスク

## 《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様にご帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

## 【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

## 【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

## 【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

## 【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

## 【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

## 【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

## 《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

## SMT 世界経済インデックス・オープン

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2017年11月30日

## お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。  
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。
- 購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。  
申込受付不可日 ニューヨーク証券取引所の休業日  
ロンドン証券取引所の休業日  
ニューヨークの銀行休業日  
ロンドンの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、投資対象国における非常事態による市場閉鎖、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの取り消しを行うことがあります。
- 信託期間 … 無期限(2017年8月25日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。  
・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合  
・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合  
・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年6月10日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。  
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。  
なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

## ファンドの費用

## 《投資者が直接的に負担する費用》

## ■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.24%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## ■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.1%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

## 《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

## ■ 運用管理費用(信託報酬)

純資産総額に対して**年率0.54%(税抜0.5%)**

## ■ その他の費用・手数料

監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、マザーファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度(監査費用は日々)、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

